

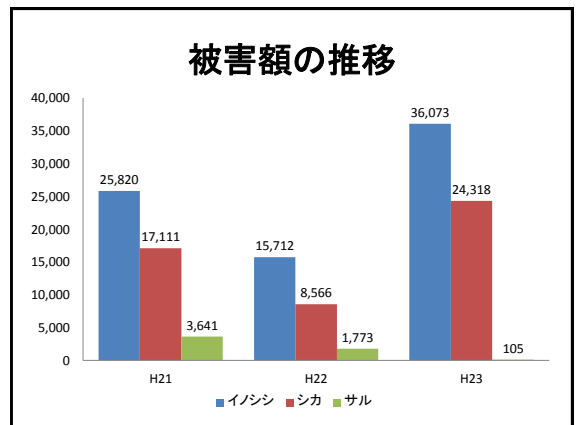
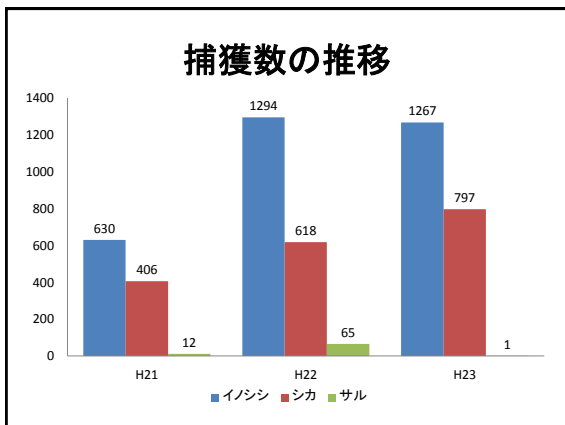


### 鳥獣被害の概要

- ・約10年ほど前からイノシシ、シカ、サルからの被害が増加。
- ・被害作物は水稲や野菜類、飼料作物、特用林産物等で、一年をとおして被害が発生。
- ・原因として、狩猟者の減少、人口林の増加、過疎高齢化etc...

↓ **ではなく！！**

**集落内外での無自覚の餌付けが大きな要因と考えられている。**



## 広域連携型獣害対策の概要

### ・西臼杵鳥獣被害対策特命チーム

宮崎県、西臼杵三町、JA、NOSAI、森林組合や猟友会等を構成員とし、各分野の垣根を越え農林業の振興を目的とする対策チームである。



### ・高森・竹田・高千穂地域鳥獣害防止広域対策協議会

熊本県、大分県、宮崎県の県境に位置する一市二町で構成される広域連携型協議会。

## 特命チームの活動内容

### ①鳥獣被害対策モデル地区の作成

【鳥獣被害対策集落地域リーダーの育成、集落内での被害対策研修会の実施等】

### ②罾猟免許取得者講習会

【経済的で実用性のある捕獲方法を検証、実証】

### ③野生猿大型捕獲罾の設置、実証

【町内で発生していた野猿被害を軽減するため平成22年度に実施】

## 鳥獣被害対策集落地域リーダー研修会



※ハード事業に従事する地区には必ず受講してもらっています。



## 集落研修会



## 罾猟免許取得者研修会



毎年開催され、初心者からベテランまで総勢60名が受講されています。



## 野猿大型捕獲罾の設置・実証

・推定生息頭数→120匹

・生息区域→五ヶ瀬川流域

・罾の建設

→平成22年11月下旬

・罾の完成・餌付け開始

→平成22年12月中旬

・餌付けに成功

→平成22年2月4日

・捕獲成功(38匹)

→平成22年2月8～10日





## 野猿大型捕獲罠の効果と注意点

### ～効果～

①60～70匹で行動するため、餌付けに成功すれば捕獲効率は大。

②大規模な被害額の減少。

③追い払いの効果アップ。

### ～注意点～

①設置場所の選定に注意。(二次被害の可能性)

②餌付けは長期にわたる可能性も。

③捕獲後の生息状況をしっかりと確認。(三次被害の可能性)

## 県境を越えた協議会の活動内容

- ①ハード事業への取組。
- ②罠狩猟者の講習受講料助成。
- ③イノシシ用箱罠の購入助成。
- ④協議会での取組内容紹介と研修、親睦会を含めた検討会を実施。
- ⑤シカ大型捕獲わなの設置・実証

【今年度実施予定。自動捕獲システムとシカ接近ナビシステムを活用した捕獲のスマート化を目指す。】

## ハード事業の実績

平成23年度 総事業費21,273,000円

電気柵整備延長: 24.0km(4集落にて)

亀甲金網柵整備延長: 2.5km(1集落にて)

平成24年度 総事業費71,594,000円

電気柵整備延長: 63.7km(13集落にて)

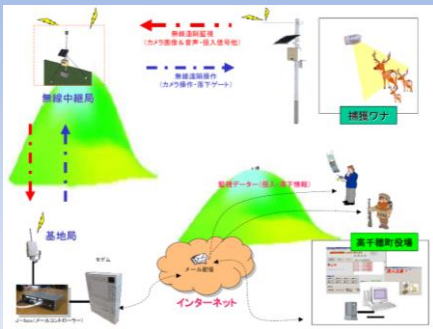
亀甲金網柵整備延長: 2.1km(2集落にて)

WM柵整備延長: 43.3km(2集落にて)

## 広域協議会研修会の実施



## シカ大型誘導捕獲わなの設置・実証 ～大量捕獲のスマート化～



## 効果的な罠にしていくために



## ～今後の課題～

・集落環境改善と捕獲を組み合わせた対策。

- ①集落リーダーを継続して育成し、集落内での間違った解釈を正し、集落環境対策のレベルアップを図ること。
- ②捕獲とハード整備のみが対策という考えの実態を改め、被害の根源を見極めること。
- ③捕獲とハード柵の新技术の模索。
- ④近隣市町村や関係機関と更なる連携強化を図る。